

新たに入会された皆さん
正会員

・特活(コスモス)
・特活(兵庫若き家相談センター)

寄付をいただいた皆さん

・山口一史
・山口耕平
・金井塚美根
・中山修
・橘田てつ子
・妹尾勇太郎
・山本敏晴
・(株)ドラゴンソリューション
・特活(宝塚NPO CENTER)

新たに入会された皆さん
賛助会員

・荒木恵子

(順不同、敬称略 期間：2015年6月1日～9月15日まで)

宝塚市立勤労市民センターにて、展開中の事業にも寄付いただいています

100色 珈琲 つばめ 文庫



計 97,376円

2015年4月1日～8月31日

ご支援ありがとうございました。

(認定) 宝塚 NPO センター 会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

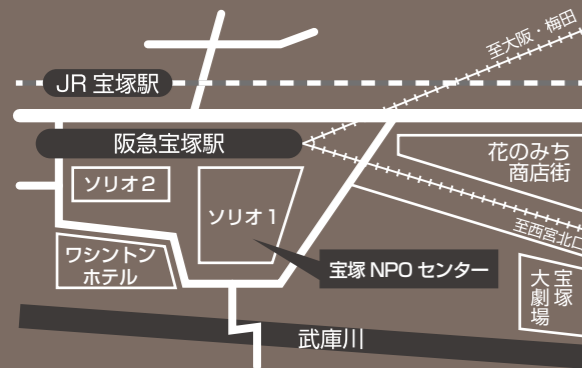
※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体正会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000 円		30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京 UFJ	
支店	宝塚支店	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
力ナ	トクティエイリ タカラツカエヌビーオーセンター	タカラツカエヌビーオーセンター
口座名義	(特) 宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター



(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚 NPO センター ニュース

TAKARAZUKA
NPO CENTER
NEWS

市民の手で市民活動を支える

84 このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

2015.9

子どもたちの未来を見つめる
地域の子育て支援

宝塚 NPO センターは
メールマガジンを月 2 回配信しています

✉ zukanpo@hnpo.net
上記アドレスに「配信希望」とご連絡ください

みなさまの寄付で支えられています

http://hnpo.net/support/
認定 NPO 法人に寄付をすると税金が戻ってきます

特定非営利活動法人 長尾すぎの子クラブ 理事長 山中 俊一

● **仕事を通じた社会参加づくり**
 ● **市民ネットワークづくり**

<地域若者サポートステーション事業>
 <ネットワーク事業>

9月12日、地域交流の活性化を目的に宝塚市文化財団主催の「宝塚あおぞらげきじょう」が開催されました。宝塚地域若者サポートステーション（サポステ）は企画段階から参画し、イベント内の「かえっこバザール」を担当しました。「かえっこバザール」とは、要らなくなったおもちゃの交換をきっかけに、地域で幅広い世代を通じた繋がりを作ることを目的としています。今回の参加者は300人と大盛況。その300人の繋がりを作る役目をサポステの利用者が、花のみち自治会の方々や地域の方々に支えられながら果たすことができました。この異世代交流の中で、サポステの利用者が地域に受け入れられ、その一員として持てる力を活かし主体的に関わることができた経験が、就労への大きな自信となったことは間違いありません。



同時に行われたおもちゃ交換会「かえっこバザール」



受付ではおもちゃと交換でスタンプを押してくれます



夢中で掘り出し物を探す子どもたち

● **参加の場づくり**

「市民が育む珈琲屋台“100色珈琲”、2号店ができました！」
 6月に1周年を迎えた100色珈琲。13名の登録ボランティアと共に運営を続けた1つの結果として、7月25日から2号店の営業が始まりました。場所は宝塚市立スポーツセンター。運動前に淹れたての珈琲を飲むと脂肪燃焼効果があり、試合前に飲むと集中力が高まると噂を呼び、オープン1か月でのべ163人の方にご利用いただきました。現在は4名の登録ボランティアと共に水曜日、土曜日の週2日運営していますが、オープン日を増やすため、ボランティアさんを引き続き募集中です。

<100色珈琲事業>



スポーツセンター西側の角にある100色珈琲屋台

● **協働の場づくり**

<宝塚市市民活動促進支援事業>



「助成金活用のコツ」講座

今年度事業は「知りあい・関わり・届ける」をテーマに半期で12講座を開催、のべ109名が参加しました。一連のテーマを基に企画した「助成金活用のコツ」講座には12名がご参加。「ファンドレイジング（資金調達）」は活動を通じて「ファン」を増やす（レイズ）ことから始まる、をモットーにお互いの活動について深く知りあうところから始めました。2回目には参加者からお借りした申請書を使ったケーススタディ。「あなたが審査員ならどう評価する？」等の問いを通じ、助成団体の視点を読み解くことで、具体的なかつ実践的なメッセージの届け方を学びました。「関わり」の大切さを考え、意見を出しやすい会議づくりを通じ地域活動の活性化を目的とした「みんなが話せる会議のひらきかた」には10名が参加。20代女性からは開催主旨ともいえる「集まる全員の協力がないと良い会議（＝活動）にはならないことがわかった」とのご感想を頂きました。「届ける」のテーマでは各種広報実務講座を開催。「差が出るチラシ作成講座」では丸1日かけた講座ながら、定員10名を超えるお申込み。講座では“ありがたい姿”や活動にかける想いを、わかりやすく読み手に届けるコツとして情報の選び方やチラシでの目線誘導を学んでいただきました。秋からも活動が広がる事業を展開していきます。どうぞご期待ください。

コラム

「地域住民の心意気で、子育て支援は家庭支援」

植木産業のまち長尾地区では植木畑が宅地化されマンション等の建設ラッシュに伴い、長尾小学校は児童数が増加して1200人規模のマンモス校になっています。そして女性の社会進出、就労機会の増加に因り保育所入所希望者も年々増加の一途を辿っていきました。宝塚市が放課後児童対策として各24小学校で実施している地域児童育成会の定員は最大80人、学童保育に入れなかった超過した待機児童を市の要請によって長尾地区まちづくり協議会・福祉部会が平成18年に立ち上げたのが、「長尾すぎの子クラブ」です。行政と市民との協働と参画の型見本でもあります。～子どもは本来「伸びよう」「成長しよう」という生命の勢いを持っている。子育てとは基本的には、子どもの生命力の流れを正しく導き、成長を阻むものを取り除いてあげることだ～とある著名人は言われています。全く私も同感です。地域住民が多く関わった「すぎの子」であるが故に、子どもにとって人生の中で、ほんの一瞬の関わりが1本に繋がった糸、未来にあってはオーケストラのように美しい音色を奏でる一人一人になっていただきたいとそう願うものです。人材の育成といっても、自らが一人立ち、一人と関わり、励まし“核の一人”をつくっていく労作業から始まる。人を育てるのは人であります。社会の中に出てふと立ち止まったとき「すぎの子」を懐かしむ一人一人に成ってほしいと望むものです。

特定非営利活動法人 長尾すぎの子クラブ 理事長 山中 俊一

取材に行ってきました！！

「地域の中の“見守り”のかたち」

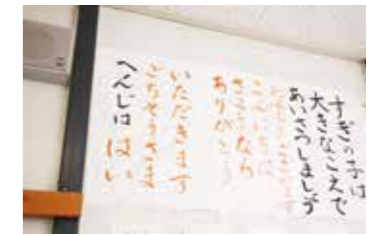
阪急山本駅から徒歩10分。設立143年を迎える長尾小学校敷地内に特定非営利活動法人長尾すぎの子クラブ(以下すぎの子)があります。学童保育の担い手として43名の児童を預かり、まもなく設立10年を迎えるすぎの子の理事長・山中俊一さんと副理事長・立川文代さんに現地でお話を伺いました。



校舎のすぐ隣にあるプレハブが長尾すぎの子クラブの活動場所



木工ボランティア「でえくさんず」制作子どもにやさしい設備



礼儀とけじめを大切に

「100年先の次世代育成をめざし、地域で悩みぬく」

すぎの子はまちづくり協議会から立ち上がった団体であり、地域住民が主体となって活動を行ってきました。「発想を実践できることが強み」と語る立川副理事長。保護者、スタッフ、運営メンバーが一丸となって活動できるよう、すぎの子には様々な創意工夫があります。例えば、子どもたちからは親しみを込めて、スタッフは「さん付け」、理事長だけは「じいちゃん」と呼ばれています。これは礼儀と親しみを使い分ける大切さを、子どものみならずスタッフ自身も意識するため。また、年度初めの「入会の集い」も工夫の1つ。「じいちゃん」が子どもたちと保護者に挨拶を行い、きちんとしたけじめを示し、また、保護者にすぎの子の成り立ちを説明し、活動に巻き込んでいきます。すぎの子にとっての子育てとは、地域全体を育む取り組みでもあるのです。

「“地域ぐるみでの子育て”を実現させていく」

活動を通じて育つ「義理の孫」たち。やんちゃな児童が新年の挨拶にクラブへ行ったら、「じいちゃん」と肩を揉んでくれたり、高校生になった子が手伝いに来てくれることを、設立時には想像もしていなかったと仰る山中さん。活動に生きがいを感じる反面、この活動が必要でなくなる社会が本当はよい、とも語られます。隣同士の関係性が希薄な社会で子育てのかたちがどうなっていくのか心配だと語る立川副理事長。しかし、希薄になっている子育てをもう一度取り戻し、地域による「見守り」を取り戻しているのが「すぎの子」ではないでしょうか。「すぎの子」に関わるすべての人が子どもたちと顔見知りになり、子どもたちの声を聞くこともできる。「地域ぐるみの子育て」が実現しています。地域ごとに子どもの、家族の「見守り」が実現していくこと、それが今後求められる「子育てのかたち」です。